

第 204 回山梨大学医学会例会

日時：令和 5 年 11 月 22 日（水）午後 4 時～ 5 時

会場：管理棟 3 階大会議室

教授就任講演

これまでの 15 年これからの 15 年

横道 洋司

山梨大学大学院総合研究部医学域 疫学・環境医学講座

司会 小泉 修一教授

【要旨】

当講座は、社会医学講座と分担して公衆衛生学の教育と研究を担うためこのたび新設されました。身が引き締まる思いです。

私は山梨大学医学部を卒業して臨床研修を修了後、国立保健医療科学院で栄養調査結果から年齢ごとの栄養摂取状況の分布を推定するモデルの開発を行っていました。これにより、集団の中で栄養を既定の量だけ摂っていない、または摂りすぎている人の割合をより精密に推定することが可能となりました。

その後山梨大学に赴任し、疫学研究を始めました。ひとつ目の柱は感染症とワクチンです。大学院での新型インフルエンザワクチンの疫学研究からは、このワクチンが COPD 患者、特発性間質性肺炎患者の死亡リスクを上げてはいないことがわかりました。レセプトデータの分析からは、抗インフルエンザ薬処方時に抗生剤が出ている患者では入院リスクが大きいことがわかりました。エコチル研究からは、インフルエンザワクチンの乳幼児への効果が観察研究としてわかりました。ワクチンの研究班からは、不活化ワクチンが ITP リスクを上げてはいないことを報告しました。

ふたつ目の柱は、糖尿病・生活習慣病の疫学研究です。体重を増減させる weight cycling が、西洋とは違い日本では糖尿病発症リスクとはなっていないことを報告しました。また健診データの分析からは、生活習慣病の項目が多いほど眼圧が高いということを報告しました。日本の大規模な病院データであるバイオバンク・ジャパンプロジェクトからは、スタチンの服用でがん死亡リスクが減少していないことが、また糖尿病性腎症患者で死亡率が高いのは痩せている患者であることがわかりました。日本老年学的評価研究（JAGES）からは、痩せていることが認知症リスクとなっていることを報告しました。いずれの研究でも日本人の特徴を発信できたことを嬉しく思うとともに、関係する方々に感謝しています。

学内の他科の先生方と共同研究させていただけるようになりました。医療とデータを結び付け、エビデンスとして報告することに喜びを感じています。なんとか疫学・環境医学講座がゼロからスタートしました。諸先輩方のご指導を仰ぎながら、山梨で公衆衛生の教育と研究に尽力いたします。一層のご指導とご鞭撻をどうかよろしく願いいたします。